取扱説明書/ユーザーズ・ガイド

小容量無停電電源装置

Model:

DL3115-300jL
DL3115-420jL
DL3115-500jL
DL3115-650jL

富士電機システムズ株式会社

AL1U-0112-U80

ごあいさつ

このたびは DL3115 シリーズをお求めいただき誠にありがとうございます。本装置は自然災害や不慮の事故、工事による停電などの電源問題からコンピュータ/ネットワークシステムを守る無停電電源装置（UPS）です。

お客様の大切な情報を守る DL3115 シリーズを安全にお使いいただくために、ご使用前に「ユーザーズ・ガイド」を最後までお読みください。特に、設置方法やバッテリ取扱を誤ると、火災やケガなどの原因となることがあり大変危険です。安全上の注意事項は必ずお守りのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、いつでもご覧になれる場所に本書を大切に保管してください。

ご 注 意

①本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③本書の内容について万全を期して作成いたしましたが、万が一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら、お求めの販売店にご連絡ください。
④運用した結果の影響については③項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害自主規制

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近傍して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取扱をしてください。

梱包内容の確認

まず、梱包箱を開けてなかみを確認してください。不足しているものがありましたら、お求めの販売店までご連絡ください。

UPS 本体	1 台
専用通信ケーブル	1 本
CD-ROM（電源管理ソフトウェア）	1 枚
保証書	1 冊
ユーザーズ・ガイド（本書）	1 冊

安全にお使いいただくために

1　安全上のご注意

本装置および本書には、お客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。ご使用前に本書をよくお読みの上、正しくお使いください。本書は、必要なときにすぐ参照できるよう、お手元に保管してください。

- **安全上の注意事項の表示と意味**

本書では、安全上の注意事項のランクを「危険」、「注意」として区別してあります。

危険	取扱を誤った場合に、危険な状態が起こりえて死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合
注意	取扱を誤った場合に、危険な状況が起こりえて中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害のみ発生が想定される場合

尚、注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

- **図記号の意味**

下図の記号は危険事項を示しています。
◇ の中に具体的な危険内容（左図の場合は一般的な危険）が描かれています。

一般的な
危険

感電の
おそれあり

火災の
おそれあり

下図の記号は注意を促す事項を示しています。
△ の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意事項）が描かれています。

一般的な
注意

感電に関する
注意

ファンに関する
注意

下図の記号は禁止（してはいけないこと）を促す事項を示しています。
⃠ の中に具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止事項）が描かれています。

一般的な
禁止事項

分解の禁止

火気の
使用禁止

下図の記号は強制（必ずしなければならないこと）を促す事項を示しています。
❗ の中に具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制項目）が描かれています。

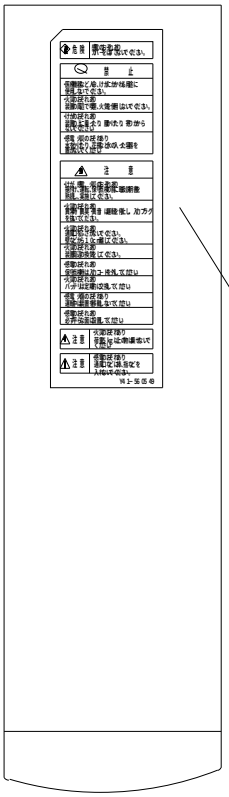
一般的な
強制事項

接地に関する
事項

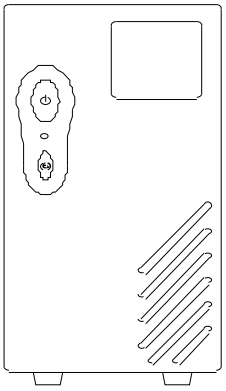
電源コードの
接続に関する
事項

2 「警告ラベル」の内容と表示位置

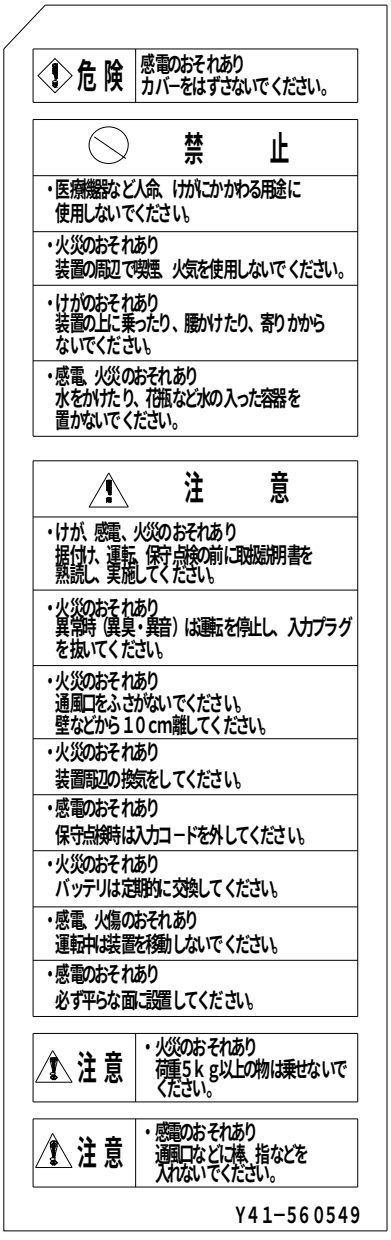
（後面）



（前面）



前面



3　使用上のご注意

安全対策

本装置を安全に正しく使用していただくために、ここで説明する注意事項を必ずお読みください。注意事項を無視した取扱を行うと、装置が故障するばかりでなく、死亡・けが・やけど・感電などの人体事故、火災・周囲の機器の損傷を引き起こす原因となることがあります。

無停電電源装置の使用目的

無停電電源装置は、一般事務室における事務処理用として開発されたものです。
したがって、以下のような用途には使用しないでください。

①人命に直接かかわる医療機器（手術室用機器・人工透析装置・保育器など）への使用
②人身の損傷にいたる可能性のある航空機、電車などへの使用
③振動や衝撃を直接うける車載、船舶などへの使用
④社会的、公共的に重要なコンピュータシステムなどへの使用
⑤これらに準ずる装置への使用

上記負荷設備への使用に該当する場合は、事前にご相談ください。人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などについては、システムの多重化など、運用、維持、管理について特別な配慮が必要になります。
本装置は、日本国内仕様品です。国外での使用については、別途ご相談ください。
日本国仕様品を国外で使用すると、電圧、使用環境がことなり、発煙、発火の原因になることがあります。

本装置の潜在リスクについて

潜在リスクとは、ここでは本装置の性格上考えられる人体／生命への影響のことをいいます。
本装置には、次のようなリスクが考えられます。

・感電事故
・短絡（ショート）事故や、発熱による火災

装置から放射される電磁波の影響

本装置に限らず一般的なコンピュータなどは、その動作原理により装置から電磁波を放射します。現在の技術では、装置から放射される電磁波を完全にシャットアウトすることはできません。
特に電波によるリモートコントロールを行っている機械の近くで本装置を使用した場合、機器の誤動作の原因となります。
このような機器のそばで本装置をお使いになる場合は、電磁シールドなどの対策を講ずる必要があります。

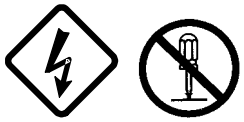
使用上、取扱上の注意事項

本書をよくお読みになり、誤った使用をしないようにしてください。また、「危ない」と感じたときは本装置のフロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」をオフし、電源を切ってから入力電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。「オン/オフボタン ⏻ 」をオンのまま入力分電盤ブレーカをオフしたり、入力電源コードを抜きますと、停電と同じ状態になりバックアップ運転となります。

取扱上の注意事項

危険

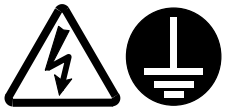
- 引火性のあるガスや発火性の物質がある場所で使用しないでください。火花が発生した場合にこれらの物質に引火し、爆発する危険があります。
- 本装置のバッテリを火の中に入れないでください。爆発したり、破裂したりする危険があります。



- 本装置の分解・修理・改造などしないでください。分解・修理・改造などすると正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の原因となることがあります。

注意

- 本装置の清掃の際は、感電することがありますので、本装置フロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」をオフし、UPS を停止してから入力電源コードを抜いてください。
- 入力電源コードの抜き差しは、本装置フロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」をオフし、UPS を停止してからプラグを持って行ってください。コード部分を引っ張るとコードが傷ついて火災や感電の原因となります。
- 濡れた手で入力電源コードを抜き差ししないでください。感電することがあります。
- 雷が鳴り出したら、ケーブル類も含めて本装置に触れないでください。落雷の際に感電することがあります。



- 本装置は、安全のため第３種以上の接地工事（接地抵抗 100Ω以下）が必要です。接地工事を行わない場合、感電することがあります。
- 本装置の入力電源コードを接続するコンセントの接地線を大電力を消費する装置などの接地線と共用しないでください。誤動作や故障の原因となります。

注意

- 本装置の吸排気口をふさがないでください。本装置内部の温度が異常に高くなると、誤動作・故障の原因となるばかりか、火災の原因となります。
- 本装置を直射日光や熱器具の熱が当たるような場所に放置しないでください。熱による故障、損傷、劣化などにより火災の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。コンセントが過熱し、火災の原因となります。
- 入力電源コードの接続に延長コードが必要となるようなコンセントから離れた場所に設置しないでください。本装置の電源仕様に合っていない電源コードをご使用されますと、電源コードが過熱して火災の原因となります。
- 本装置は AC100V　50／60Hz 用です。これ以外の電源電圧で使用すると故障し、火災や感電の原因となります。
- 本装置に接続されているケーブル類は無理に曲げたり束ねたり、ものを載せたり、はさみ込んだりしないでください。ケーブルが破損し、感電や火災の原因となります。
- ケーブル類の接続が不完全のまま使用しないでください。ショートや発熱により感電や火災の原因となります。
- コンセント、ケーブル、本装置の背面コネクタは水などで濡らさないでください。感電や火災の原因となります。
- 本装置内部に異物を入れないでください。金属類や燃えやすいものなどの異物が入ると内部の部品がショートして感電や火災の原因となります。万一、異物が入った場合は、本装置フロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」をオフし、UPS を停止してから電源コードを抜いて、お求めの販売店にご連絡ください。
- 本装置をほこりの多い所に設置しないでください。ほこりがたまり、内部の部品がショートして感電や火災の原因となります。
- 塩分や腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。内部の部品がショートや劣化して感電や火災の原因となります。

- 本装置は重量物です。本装置を持ち上げるときはしっかりと持って運んでください。無理に持ち上げると腰を痛めたり、落としてけがをすることがあります。

- 本装置の上に乗ったり、物を載せないでください。倒れたり、落ちたり、壊れたりしてけがをすることがあります。
- 本装置を不安定な場所に設置しないでください。本装置が倒れ、けがをすることがあります。

- 本装置の使用中に異音、異臭の発生や異常が生じた時は、直ちに本装置フロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」をオフし、UPS を停止してから電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
  使用を中止し、お求めの販売店までご連絡ください。

4　メンテナンスに関する注意事項

バッテリの交換および廃棄について

本装置には短時間の停電などに対応するため、バッテリを使用しています。
バッテリには鉛および希硫酸（うすめた硫酸）を使用していますので、以下の内容について十分注意してください。

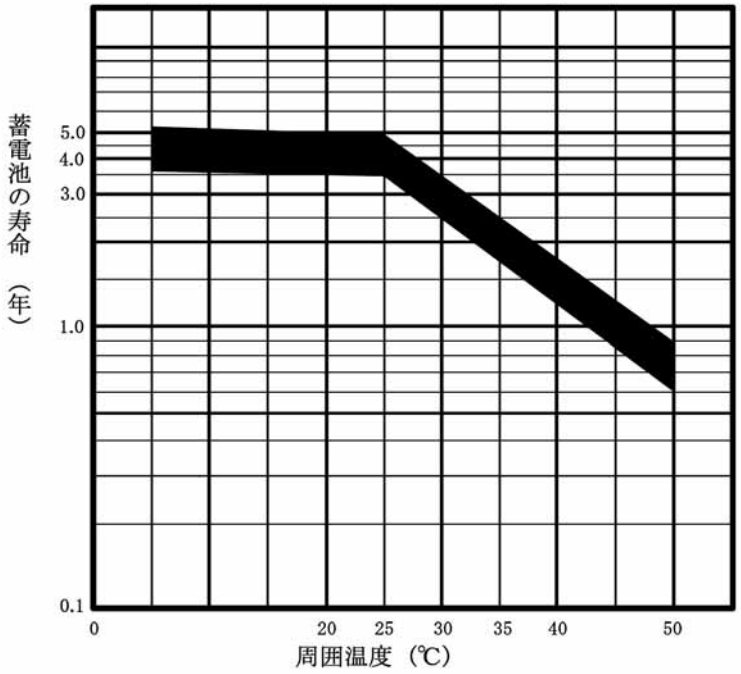
注意

- バッテリの交換時期は通常使用時で 3～4.5 年（使用温度環境 25℃時）です。定期的に交換してください。なお、使用温度が 25℃以上であったり、放電回数が多いと寿命が短くなりますので、早めの交換をお勧めします。

使用温度環境	バッテリ期待寿命	バッテリ交換時期
25℃	3.5～5年	3～4.5年
30℃	2.5～3.5 年	2～3 年
40℃	1.3～1.8 年	0.7～1.3 年

蓄電池の交換周期について

UPS の設置環境により、蓄電池の寿命は大きく変化します。安全にご使用いただくため、使用環境を目安に交換をお願いします。



蓄電池の寿命表示は、ユーザーズガイドライン（JEM-TR204：2001）に準拠して表示しております。

注意

- バッテリを交換しないまま長時間使用した場合、バッテリ容器の劣化により液もれすることがあります。もれた液には硫酸が混ざっていますので、発煙や火災の原因となります。また、もれた液が皮膚に付着したり、目に入った場合、やけどをおこしたり失明することも考えられます。万一、皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で洗浄して、医師に相談してください。

バッテリは「廃棄物の処理および清掃に関する法律」において、「特別管理産業廃棄物」に指定されていますので、むやみにバッテリを廃棄することはできません。
お求めの販売店にご連絡ください。

安全な交換作業を行って頂くためには、電気作業の経験・知識のある方がバッテリ交換作業を実施してください。バッテリ交換作業にあたっては事前に本書を熟読して頂き、安全上の注意事項をご理解した上で、作業を開始してください。

本装置の改造および修理の禁止について

注意

- 本装置の内部は高電圧部分などがあり、保守員以外の人がバッテリ交換作業や修理を行ったり、本装置のカバーを開けたりすると、保証の対象外となるばかりでなく感電などの事故の原因となります。

5 その他の注意事項

本装置の譲渡または売却時の注意について
本装置を第三者に譲渡または売却する場合は、本装置に添付されている全てのものを譲渡または売却してください。

本装置の保証について
本装置には「保証書」が添付されています。「保証書」は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間内に万一故障した場合は、保証書記載内容にもとづいて修理いたします。保証期間後の修理については、販売店にご相談ください。詳しくは、保証書をご覧ください。販売店による所定事項の記入がない場合、保証期間にかかわらず有償にて修理または交換となります。

目　　次

第１章 装置概要 1

第２章 設 置 2

2-1 梱包内容の確認 2
2-2 UPS を設置する 2

第３章 操作方法および設定方法 3

3-1 保護する機器を接続する 3
3-2 ＵＰＳを運転する 4
3-3 ＵＰＳを停止する 4
3-4 UPS のバッテリを充電するには 4
3-5 DIP スイッチの設定方法 5
3-6 通信ポート設定 6

第４章 ＵＰＳメンテナンス 7

4-1 UPS およびバッテリの取扱方法 7
4-2 UPS およびバッテリの保管方法 7
4-3 バッテリ交換の目安 7
4-4 バッテリのマニュアルテスト 7
4-5 UPS およびバッテリのリサイクルについて 7

第５章 仕　様 8

5-1 モデル別仕様 8
5-2 バッテリバックアップ時間 9

第６章 トラブルシューティング 10

6-1 アラーム音と UPS 状態 10
6-2 アラーム音を止めるには 10

第７章 保証書とアフターサービス 12

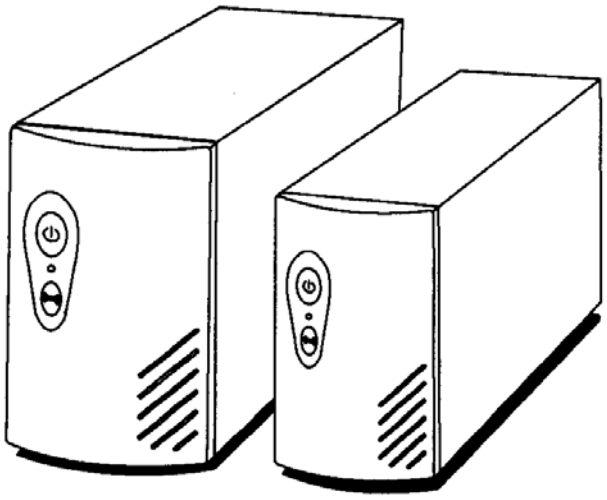
7-1 保証書 12
7-2 アフターサービス 12

第１章 装置概要

DL3115 シリーズ無停電電源装置（UPS）は、停電／電圧サグ／電圧サージの３つの基本的な電源障害から、コンピュータを保護します。
停電などの電源障害は、コンピュータで作業中のデータを喪失するだけでなく、重要なデータを破壊し、ハードウェアに損傷を与える可能性があります。その結果、何時間もの生産性を失い、高い修復費用が発生してしまいます。
DL3115 シリーズは、このような電源障害から、お客様のコンピュータおよびデータを守ります。
更に DL3115 シリーズには、データ保護にとって必要不可欠な電源管理ソフトウェアを、通信ケーブルとともに同梱しています。

DL3115 シリーズの特長

・コンパクト設計によって、スペースを節約でき、UPS を簡単に設置できます。
・アラーム音で、障害状態を通知します。



650VA　　300VA/420VA/500VA

図1-1 DL 3115 シリーズ

第2章 設 置

2-1 梱包内容の確認

UPS の梱包を開封後、付属品が全てそろっていることと、本体及び付属品に損傷がないことを確認してください。UPS に損傷がある場合には、その時の梱包材と運送書類を保管の上、早急にお求めの販売店までご連絡ください。機器が損傷している状態で操作を行わないでください。

2-2 UPS を設置する

UPS を設置するにあたり、設置には適切な場所をお選びください。
装置は平坦な場所に設置してください。
UPS の吸排気スペースは図 2-1 のように確保してください。
なお、特に以下のような場所には設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 高温・多湿の場所（バッテリの寿命を考慮し、雰囲気温度は 10～25℃の範囲内に管理することをお勧めします。）
- 強い振動や衝撃のある場所
- 塩分や腐食性のガスが発生する場所
- 傾いている（水平でない）場所
- 無線機の近く（無線機にノイズが混入する場合があります。）
- ほこりの多い場所

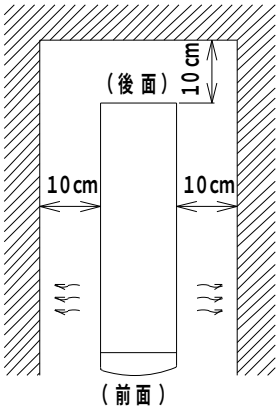


図 2-1 上から観た図

注意

- UPS が運転している時は、入力電源コードのプラグを抜かないでください。UPS から安全接地が外れてしまいます。
- UPS の上部に腰掛けたり、乗ったり、踏み台にしたりしないでください。

第３章 操作方法および設定方法

3-1 保護する機器を接続する

バックアップ保護する機器の電源コードプラグをＵＰＳ出力コンセントに差し込みます。

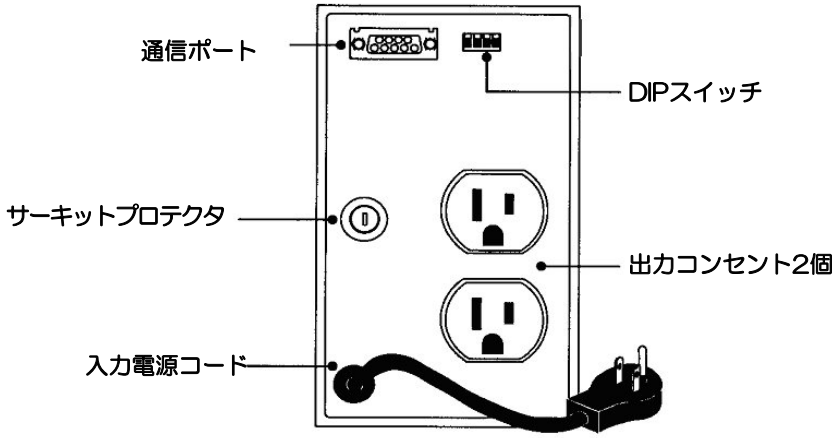
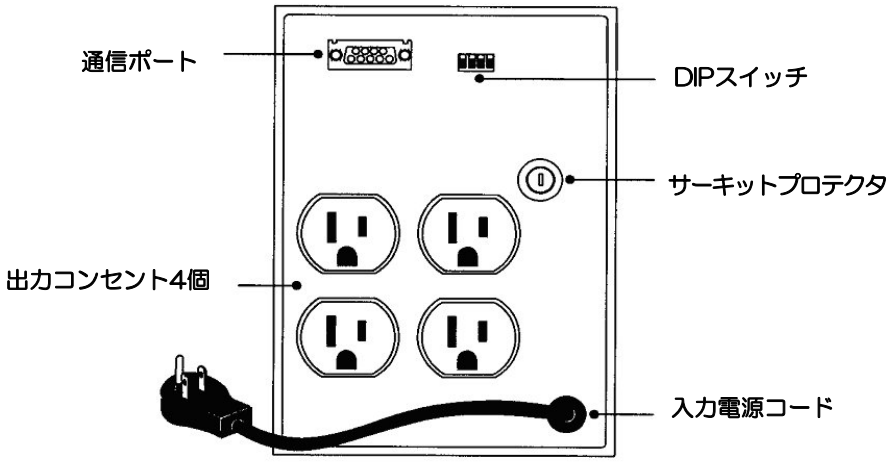


図 3-1 300VA / 420VA / 500VA リアパネル



]

図 3-2 650VA リアパネル

3-2 ＵＰＳを運転する

UPS を運転するには、電源コンセントに UPS のプラグを差し込んだ後、フロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」を押します（図 3-3を参照）。ボタンを押すと、UPS は運転を開始します。このあと、「電源オン表示」の LED が点灯して、出力コンセントから電力供給が始まります。この状態で停電が発生した場合、UPS はバックアップ運転を開始します。

3-3 ＵＰＳを停止する

UPS を停止するには、「電源オン表示」の LED が点灯した状態でフロントパネルにある「オン/オフボタン ⏻ 」を押します。「電源オン表示」の LED が消灯し出力コンセントからの電力供給が停止します。UPS を完全に停止するには電源コンセントから UPS のプラグを抜きます。

3-4 UPS のバッテリを充電するには

電源コンセントに UPS のプラグを差し込んだ状態であれば、UPS の運転・停止にかかわらずバッテリの充電が行われます。

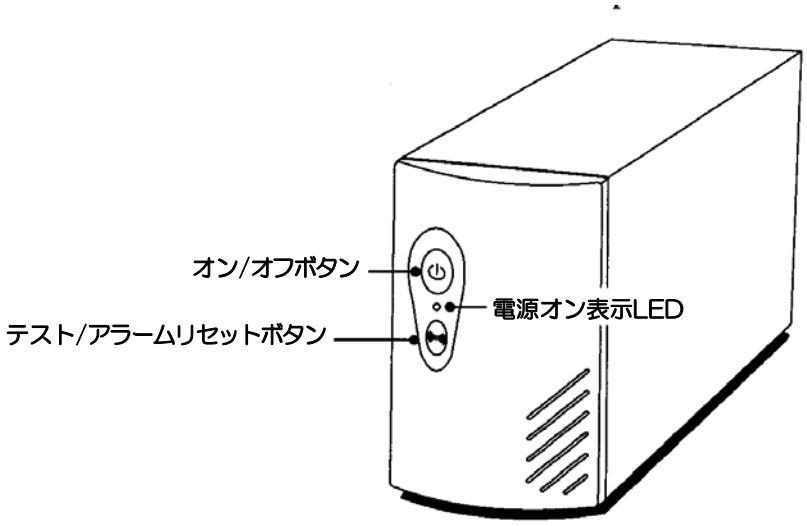


図 3-3　3115 シリーズフロントパネル

	・本装置は、パソコン及び類似機器（コンデンサインプット形整流器）の専用バックアップ電源です。レーザープリンタは、ヒーターが非常に高い電力を要求するため、UPS の負荷としてご使用にならないでください。また、トランス、インダクタ、モーターなどの巻線負荷に使用した場合、本装置が破損しますので、使用しないでください。 ・ＵＰＳを使用せず、入力電源を切る場合にはフロントパネルの「オン/オフボタン ⏻ 」を必ずオフにしてください。

3-5 DIP スイッチの設定方法

本装置のリアパネルにある DIP スイッチ（図 3-4、図 3-5参照）は、バックアップ運転時の出力電圧および入力検出電圧範囲を設定するために使用します。

1. UPS は完全に停止されていなければなりません。
   フロントパネルにある「オン/オフボタン ⏻ 」を押して UPS を停止させてから、UPS のプラグを抜いてください。（完全停止しないと設定変更が有効になりません）
2. DIP スイッチを表 3-1、表 3-2のDIP スイッチ設定に従ってセットしてください。
3. UPS のプラグをコンセントまたは他の電源に差し込み、「オン/オフボタン ⏻ 」を押して UPS を運転します。

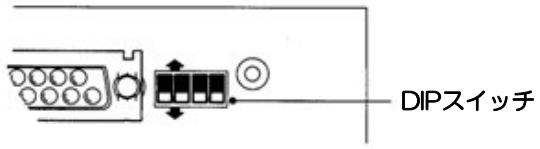


図 3-4 UPS リアパネル

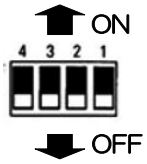


図 3-5 DIP スイッチ詳細

表 3-1. DIP1、2 スイッチ設定

バックアップ時 出力電圧	DIP スイッチ 1	DIP スイッチ 2
92V	ON	OFF
100V*	OFF	OFF
106V	OFF	ON
設定禁止	ON	ON

*デフォルト位置

表 3-2. DIP3、4 スイッチ設定

停電検出値	DIP スイッチ 3	DIP スイッチ 4
80V/117V	ON	OFF
85V/117V*	OFF	OFF
90V/117V	OFF	ON
設定禁止	ON	ON

*デフォルト位置

3-6 通信ポート設定

UPS とコンピュータ間の通信を確立するには、添付の通信ケーブルを使用してコンピュータを UPS 通信ポートに接続します。

通信ケーブルを取り付けると、電源管理ソフトウェアにより UPS と通信することができます。電源異常が起きた場合、電源管理ソフトウェアがコンピュータの OS を安全にシャットダウンします。電源管理ソフトウェアの機能については、電源管理ソフトウェアのユーザーズ・マニュアルをご参照ください。

通信ポート構成の詳細については表 3-3を参照してください。

	お客様の機器の損傷を防ぐため、出荷時に添付された通信ケーブル以外は通信ポートに接続しないでください（表 3-3を参照）。 市販の通信ケーブルは、お客様のコンピュータを損傷することがあります。

表 3-3 通信ポート構成

ピン番号	信 号 名	信号送受	信号仕様	記事
1	UPS シャットダウン信号	受信	RS232C ハイレベル信号 0.4S 以上	バックアップ運転時 信号受信で UPS 停止
2	ローバッテリ信号	送信	接点信号 15V、10mA	バッテリ電圧低下予告時 ショート
3	停電信号	送信	接点信号 15V、10mA	入力異常時ショート
4	ロジックグラウンド	－	－	－
5	ローバッテリ信号	送信	RS232C ローレベル信号	
6	停電信号	送信	RS232C ハイレベル信号	
7	未使用	－	－	－
8	未使用	－	－	－
9	筐体グラウンド	－	－	4 ピンと接続

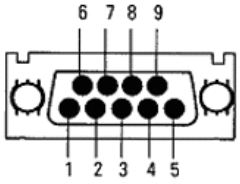


図 3-6 通信ポート

第4章 ＵＰＳメンテナンス

この製品には、鉛蓄電池を使用しております。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
鉛蓄電池の交換およびご使用済み製品の破棄に際しては、リサイクルへご協力ください。

4-1 UPS およびバッテリの取扱方法

UPS の周囲を清潔な無塵状態に保ってください。
周囲が非常にほこりっぽい場合、掃除機で装置の周辺をきれいにしてください。
バッテリ寿命は温度が高い環境では短くなりますので、UPS の周囲温度を 25℃以下に保ってください。

4-2 UPS およびバッテリの保管方法

UPS を長期間保管する場合、6 ヶ月以内ごとに UPS のプラグを電源コンセントに差し込みバッテリを再充電してください。UPS は約 12 時間で 90%まで充電されます。ただし、長期保管後のご使用は、UPS を 24 時間充電してからご使用ください。

4-3 バッテリ交換の目安

バッテリの交換については、お求めの販売店にご相談ください。
通常の交換時期は、約 3～4.5 年を目安としてください。なお、周囲温度が２５℃より高い場合や、バックアップの回数が多い場合など、上記の目安よりもバッテリの寿命が短くなりますので、早めのバッテリ交換をお勧めします。

4-4 バッテリのマニュアルテスト

「テスト/アラームリセットボタン (((o))) 」を 3 秒間押し続けると、バッテリテストを開始します。約 10 秒後に UPS は、自動的に１５秒間のバックアップ運転し、バッテリ性能をテストします。バッテリに問題があれば、UPS は通常の運転に戻り、アラーム音が鳴ります。
詳細については 11 ページ「トラブルシューティング」を参照してください。

	注記 バッテリ寿命を超えた状態で使用された場合、停電時にバックアップできなかったり、その他予期せぬ障害を発生させる原因となります。早めに交換することをお勧めします。

4-5 UPS およびバッテリのリサイクルについて

UPS およびバッテリのリサイクルについては、お求めの販売店にお問い合わせください。

第5章 仕　様

5-1 モデル別仕様

表 5-1 モデル別仕様表

UPS モデル			DL3115 300jL	DL3115 420jL	DL3115 500jL	DL3115 650jL
定格出力容量			300VA/180W	420VA/252W	500VA/300W	650VA/400W
運転方式			常時商用給電方式（オフライン方式）			
冷却方式			自然空冷			
定格入出力電圧			100V			
交流入力	接続形態		5-15P 付き入力電源コード（1.8m）			
	相数・線数		単相２線（アース付き）			
	電圧範囲		85～117V			
	周波数		50/60±3Hz			
	最大電源容量		400VA	500VA	600VA	720VA
交流出力	定格電流		3.0A	4.2A	5.0A	6.5A
	バックアップ運転時	定格電圧	92V、100V（デフォルト）、106V　選択可能			
		電圧精度	定格電圧±5V、ローバッテリ時 -10%			
		周波数	50/60±1Hz			
		波形	矩形波			
		過負荷耐量	120%過負荷まで 10 秒			
	商用給電時	電圧	85～117V			
		周波数	50/60±3Hz			
		波形	入力波形をそのまま出力します			
		過負荷耐量	120%過負荷まで 180 秒			
	停電時切換時間		10ms（60Hz）/12ms（50Hz）			
	接続形態		5-15R コンセント　２個			5-15R コンセント 4 個
バッテリ	バッテリ種類		小形シール鉛蓄電池			
	期待寿命※1		3.5～5 年（UPS 周囲温度 25℃時）			
	バッテリ容量/個数		7.2Ah/12VDC×1 個			12Ah/6VDC×2 個
	バックアップ時間（新品定格時）		9 分	5 分	3.5 分	5 分
	最大バックアップ時間※2		30 分			
	充電時間		約 12 時間（90%充電まで）			
その他	周囲温度		0～40℃			
	相対湿度		10～90%（無結露のこと）			
	騒音		40dB(A)以下			
	外形寸法（W×H×D）ゴム足含む		86×155×323mm			117×163×356mm
	質量		5.5kg			7.5kg
規格	安全規格		UL1778			
	EMC		VCCI　Class　B			

※1 蓄電池の寿命表示は、ユーザーズガイドライン（JEM-TR204：2001）に準拠して表示しております。

※2 バックアップ時間 30 分以上でのご使用は、バッテリの充電時間、バックアップ時間、バッテリ寿命に影響を与えますので、最大バックアップ時間を設けてあります。

5-2 バッテリバックアップ時間

表 5-2. バッテリバックアップ時間表（分）

負荷量	UPS モデル			
VA/Watts	DL3115 300jL	DL3115 420jL	DL3115 500jL	DL3115 650jL
150VA/90W	20	21	22	27
200VA/120W	13	14	15	23
300VA/180W	9	10	11	15
350VA/210W		6	7	13
420VA/252W		5	6	10
500VA/300W			3.5	8
600VA/360W				6
650VA/400W				5

注記 バックアップ時間は全て代表値です。実際の時間は、使用環境（負荷の状態、周囲温度、バッテリの使用状況など）により異なります。

第6章 トラブルシューティング

6-1 アラーム音とUPS状態

UPSには、障害を警告するための、アラーム機能が備えられています。
障害が発生した場合、UPS はその状態に応じて異なったパターンでアラーム音を鳴らします。アラームの種類および障害原因を解決するには表 6-1、表 6-2をご参照ください。

6-2 アラーム音を止めるには

アラーム音を止めるには、「テスト/アラームリセットボタン (((o))) 」を押してください。
新たに障害が発生した場合には、再びアラーム音が鳴ります。UPS 故障、バッテリ容量低下状態の場合、アラーム音は止まりません。

表 6-1 トラブルシューティング1

UPS状態	考えられる原因	処置
「電源オン表示LED」が点灯していない。UPSが運転しない。	入力電源コードが電源コンセントに接続されていません。	UPS の入力電源コードを使用可能な電源コンセントに差し込んでください。
	電源コンセントに商用電源が供給されていません。	電源コンセントに商用電源が供給されているか確認してください。
正常な商用電源の供給があるにもかかわらず、UPS が運転しない。	「サーキットプロテクタ」がトリップまたはバッテリヒューズが断になっている。	UPSの「オン/オフボタン ⏻ 」を押してUPSを停止ください。次にUPSの「サーキットプロテクタ」をリセットします。たびたび「サーキットプロテクタ」がトリップしてしまう場合、過負荷の可能性がありますので、負荷を減らしてください。 それでも UPS が運転しない場合は、内部のバッテリヒューズが切れている可能性がありますので、お求めの販売店にご相談ください。
	長期保存や放電後の長期間放置、バッテリ電圧が下がりきっている。	お求めの販売店にご相談ください。
UPS が期待していた時間までバックアップしない。	下記の原因で、バッテリ容量が低下している可能性があります。 ・長期保存 ・頻繁な停電 ・バッテリの寿命	電源コンセントに UPS のプラグを差し込み、バッテリを 24 時間充電します。充電後「テスト/アラームボタン (((o))) 」を 3 秒間押し続け、マニュアルバッテリテストの結果アラーム音が鳴る場合、バッテリ容量が低下しています。バッテリを交換する必要がありますので、お求めの販売店にご相談ください。

表 6-2. トラブルシューティング２

アラーム音 パターン	考えられる原因	処　　置
UPS が 4 秒に 1 回アラーム音を出す。	電源コンセントに商用電源が供給されていません。	UPS は内部バッテリでお客様の機器に電力供給しています。長い停電の場合は、バッテリを節約するために、作業内容を保存しコンピュータをシャットダウンしてください。
	入力電圧が高すぎるか低すぎるため、バックアップ運転しています。	5 ページの「DIP スイッチの設定方法」を参照し、入力電圧範囲を広げて確認してください。 （バックアップする機器が設定した最低電圧でも動作することを先にご確認ください）
UPS が 1 秒に 1 回アラーム音を出す。	バッテリの残容量が少なくなっています。	バッテリの残り容量が 2～5 分になっています（機器の大きさや充電状態により変わります）。作業内容を保存し、負荷の電源を切って下さい。アラームを止めることはできません。
UPS が 20 秒毎に 3 回アラーム音を出す。	UPS はバッテリ異常再判定の待機中です。	「テスト/アラームボタン 🔊」を押してマニュアルバッテリテストを行い、判定基準を越えた場合、UPS は４時間後に２回目のバッテリチェックを行い、最終判定をします。２回目のチェックまでの間はこのアラーム音が鳴ります。４時間後にアラーム音が止まった場合は何もする必要はありません。アラーム音が「５秒に３回」に変わった場合は次項の指示に従ってください。尚、このアラーム音の間に「テスト/アラームボタン 🔊」を押すと２回目のバッテリチェックはキャンセルされます。
UPS が 5 秒毎に 3 回アラーム音を出す。	バッテリに問題があります。	バッテリを交換する必要があります。お求めの販売店にご相談ください。
UPS が 0.5 秒に 1 回アラーム音を出す。	負荷量が UPS 定格容量を超えています（負荷が 110%以上）または負荷に問題があります。	UPS の負荷を減らしてください。
UPSが連続アラーム音を鳴らす。	UPS 故障状態	作業内容を保存し負荷の電源を落としてください。UPS を停止してください。お求めの販売店に連絡してください。

第7章 保証書とアフターサービス

7-1 保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書の内容と所定事項が記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より１年間です。

7-2 アフターサービス

アフターサービスについてのお問い合わせは、お求めの販売店にご連絡ください。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づき、修理または交換致します。詳しくは保証書をご覧ください。
ご連絡の際は、次の項目をお知らせください。

① 品名（モデル名）	：DL3115 300jL（例）
② 保証番号	：保証書に記載
③ お買い上げ日	：保証書に記載
④ 故障の状態	：できるだけ詳しく

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

商品の最新情報および最寄りの営業拠点情報をホームページにてご提供しています。
http://www.fujielectric.co.jp/products/power_supply